

下肢静脈瘤という病気

「**下肢静脈瘤(かしじょうみゃくりゅう)**」とは足の静脈が瘤(こぶ)のようにふくれる病気です。日本では1000万人以上の患者さんがいると推測されていますが、年齢や体質のせいとあきらめて我慢して過ごす方が多いかと思えます。命にかかわることは少ないですが**自然に治ることはなく徐々に進行して足をおかしていくこともある**ため軽視できない病気です。

最初は血管がふくらんでいるだけですが進行すると、むくみやだるさ、夜に足がつるといった症状が出てきます。瘤が破れて出血したり炎症を起こして赤く腫れて痛むこともあります。しかし一番の問題は皮膚がおかされることです。足がうっ血し長い年月をかけて皮膚が黒くなったり硬くなりかゆみが続き、最後にはぼろぼろになった皮膚から汁が出て大きな穴があいたり腐ってくることもあります。こうなるとなかなか治らないため**早めの診断と治療が望ましい**です。

治療法は色々ありますが、根治には手術が必要です。済生会山口総合病院では標準的治療法であるストリッピング手術を**局所麻酔で手術を行っており痛みが少なく日帰りもしくは一泊入院で済みます**。傷の大きさも足の付け根など2,3カ所に1センチ程度の小さな傷が付くほかは専用フックを用いて2ミリ以下の小さな傷で行っています。

更に**血管内レーザー治療**を保険診療で行うことができるようになりました。手術費はこれまでとあまり変わらず、**より少ない傷と手術時間での治療が可能となりました**。済生会山口総合病院は山口県でトップクラスの手術実績があります。



下肢静脈瘤の重症度

軽症

1段階 毛細血管の拡張

この時点では特に治療は必要ありません。

2段階 静脈瘤

緊急の治療は必要ありませんが、将来的に症状が出てくる可能性があります。

3段階 むくみやだるさの出現

年々悪化していく恐れがあり治療を行うのが望ましいです。

4～5段階 皮膚が黒ずんでかゆくなる

ばい菌がつくと急激に悪化することもあり、早めの治療が必要です。

6段階 皮膚に穴があいたり腐ってくる

治療に長い月日がかかってしまいます。こうなる前に治療を行うのが望ましいです。

重症



治療法の比較

硬化療法

静脈瘤に薬を注射してつぶしてしまう方法です。最近では単独で行うことはあまりありません。

利点: 負担が少ない、小さい静脈瘤に有効

欠点: 痛み、皮膚の色素沈着、大きい血管には不向き、再発率が非常に高い

ストリッピング手術

古くからなされている日本で主流の治療法です。足の付け根や膝下など何カ所かに傷をつけ、血管の中にワイヤーを通して静脈瘤を引き抜く方法です。

利点: 効果が確実で安定している

欠点: 傷が大きい、入院が必要、術後の痛み(*)

(*)当院では最新の方法により少ない痛みと小さい傷で日帰りもしくは1泊入院の手術が可能です。

レーザー治療

新しい治療法です。静脈の中にカテーテルを入れて内側からレーザーで焼きつぶしてしまう方法です。平成23年1月より保険がきくようになりました。海外では主流の治療法ですが、日本ではまだ行っている病院は多くありません。

利点: 傷が小さい 手術時間が短い 再発が少ない

欠点: 静脈瘤が太い場合など不向きなケースがある、最新の機種は保険がきかない

済生会山口総合病院

血管外科 外来

月曜・水曜 午前中

下肢静脈瘤 専門外来

(担当医 齋藤 聡)

水曜 午前中

お問い合わせ(代表)

TEL 083-901-6111 FAX 083-921-0714